

株式会社さくら都市総合研究所

清水 秀幸
主席 研究員17 都市の景観を
考える

昨年来、多くのペー
ジを割いて都市の景観
を論じてきた。それ
によって、まちの景観を
構成する要素は極めて
多分野に及ぶこと、そ
してまた都市の景観の
果たすべき重要な役割
も数多く存在すること
が、読者の皆さんもご
理解いただけたものと
推計するのである。

都市の活力とは、紛
れもなくそこに住み、
暮らす人々の活力であ
り、その先の究極の目
的「健康長寿」である
といえる。

学術的にも、住環境
と人の寿命には深い因
果関係が認められるこ
とは既に立証済みであ
る。

読者もご存知のよう
に、日本の健康寿命も
平均寿命とともに現在
世界第一位である。
その一方で、日本は
寝たきり期間も世界第
一位という汚名も押し
ている。

実に、日本人男性に
おいては9・2年、女
性においては12・7年、
長い人生の10分の1以
上は寝たきりの状態で
終末を迎えることにな
るのである。

そういえば、ここに
きて長きにわたり長寿
日本一をほしいままに
してきた長野県が、2
015年男性平均寿命
(※)で、滋賀県にト
ップの座を奪われた
(女性は長野県87・6
75年、岡山県87・6
73年で、辛うじてト
ップを維持)。

男性の平均寿命は、
数値にしてわずか0・
03(滋賀県81・78年、
長野県81・75年)とは
いえ、1990年調査
から約30年にわたって
守ってきた座を他県に
奪取されるのは、筆者
にとっても寿命を短く
されたようで、けっし
て穏やかではないので
ある。(続く)

※厚生労働省が発表
した「平成27年都道府
県別生命表」の概況に
よると、平均寿命の高
い上位10都道府県は、

男性(全国平均80・77
年)が滋賀県81・78年、
長野県81・75年、京都
府81・40年、奈良県
81・36年、神奈川県
81・32年、福井県81・
27年、熊本県81・22年、
愛知県81・10年、広島
県81・08年、大分県
81・08年。女性(同
87・01年)は長野県
87・675年、岡山県
87・673年、島根県
87・64年、滋賀県87・
57年、福井県87・54年、
熊本県87・49年、沖縄
県87・44年、富山県
87・42年、京都府87・
35年、広島県87・33年。
平均寿命の最も高い都
道府県と最も低い都道
府県との差は、男性3・
11年(1位滋賀県81・
78年、47位青森県81・
78・67年)、女性1・
74年(1位長野県81・
78・675年、47位青
森県81・85・93年)とな
っている。

清水 秀幸氏(しみ
ず・ひでゆき)195
2年長野市生まれ、76
年明治大学政経学部政
治学科卒。2013年
6月株式会社守谷商会
役員を退任し、同年7
月株式会社さくら都市
総合研究所を設立。長
野市都市計画審議会専
門委員ほか6委員、そ
の他各地方自治体の審
議員・部会員を兼任。
現在同研究所社長